

果実(萼筒)表面に刺のあるハマナシを観察

櫻井幸枝

2008年6月7日、長岡市野積(旧寺泊町)の野積海岸で見かけたハマナシは、未熟な果実(萼筒)の表面に一面細いトゲが出ていた。同じ日、田ノ浦で見たハマナシは、果実の表面に刺はなかったので、その時は、同じ種でこんなに姿が変わるなんて不思議なものだと思って、写真を撮影しておいた。

後にこの写真を見た際、気になって図鑑を再確認したところ、果実(萼筒)の刺の有無は検索表で「ハマナシ節」と「サンショウバラ節」を分ける形態として用いられていた(表1)。また、種類別の説明でも「萼筒は扁球形、無毛…」とあり、ハマナシの果実(萼筒)には刺や毛は無いことになっていた。

これでは野積海岸のものは正体不明の植物になってしまうが、店の看板のようなものと一緒にはつんと生えていたことなど、ハマナシ似の園芸種の可能性なども連想された。

ところが、ハマナシの果実(萼筒)に刺がある場合もあるらしい、という情報が入った。検索表に用いられる形態に変異があるのは混乱のもとだし(ハマナシとサンショウバラの場合は姿も分布も違うのでまだ何とかなるが)、そんなことがあるのかと驚いたが、確かに、赤く熟した刺のある果実の写真が掲載された文献(酒井、1987)を確認した。

何年も前に「食べられる」という話題が出て手にとったものには刺はなかったと記憶しているが、果実の表面に刺が「無い」ことはあまり意識していなかった。しかし、図鑑などに掲載された写真を見ても、刺の無い平滑な表面のほうが普通らしい。第一印象で違和感を持ったのは刺のある果実だった。

この形態について書かれた文章は確認できなかったため、実際のところ「ハマナシらしい」としかいえない状況である。そして、どういった変化であるのか、(例えば個体変異なのか、個体内でも変化が起こるのか、など)今後観察していきたい。

ハマナシについての情報をいただいた石澤先生に感謝いたします。

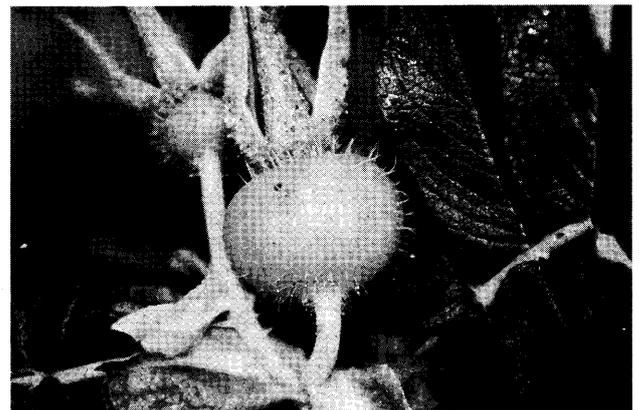
参考文献：

日本の野生植物 木本I (1989) 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 平凡社
新潟県の海辺の植物 (1987) 酒井昭治 株式会社北都

表1：バラ属の検索表より(平凡社, 1989)

(※は節に含まれる種類)

ハマナシ節	果実(萼筒)の表面は無刺。萼裂片は狭披針形で伸長し、花時には反曲、果時には直立して宿存する。 ※ハマナシ、カラフトイバラ、オオタカネバラ、タカネバラ
サンショウバラ節	果実(萼筒)は扁球形で大きく、径約2cm、果実は無毛で、固い刺が多い。萼裂片は広卵形、縁に大きな尖裂片を分かち。(以下略) ※サンショウバラ



写真は2枚とも同じ個体の果実(萼筒)と思われるもの。
2008年6月7日撮影